

東京iCDCリスクコミュニケーションチームによる 都民1万人アンケート調査結果（2026年2月実施）

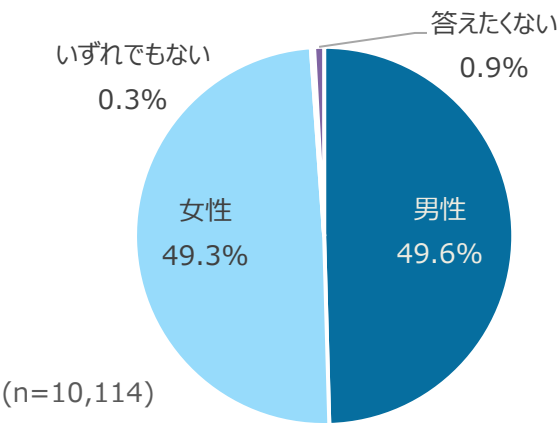
2026.9.4

- **調査方法：**インターネット調査
- **調査対象：**東京都に住所を有する20代から70代までの者
- **サンプリング方法およびサンプル数：**
 - ・ 性別・年代・居住地の構成が東京都の人口構成比に近づくよう割当抽出
 - ・ 有効回答票数：10,114件
- **調査期間：**2026年2月6日（金）～ 2月16日（月）
- **調査項目（概要）：**
 - 新型コロナに関する意識
 - ワクチンに関する意識
 - 感染症全般に関する認識・行動
 - 情報行動・情報源
 - 薬剤耐性・抗菌薬
 - パンデミックへの備え など

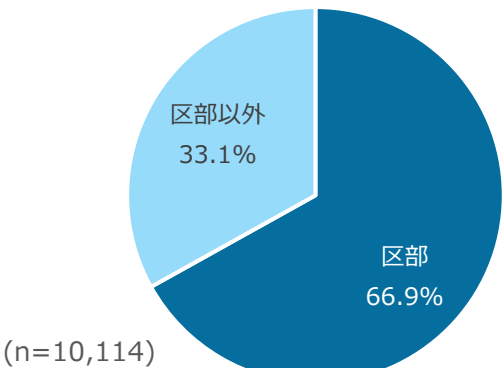
有効回答票についての基本属性

有効回答票 n=10,114

回答者の性別



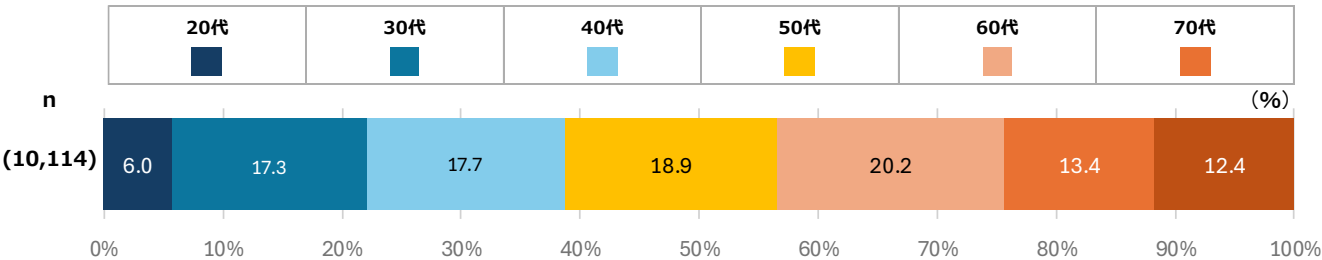
回答者の居住地



回答者の職業

管理的職業従事者	7.1%
専門的・技術的職業従事者	12.0%
事務従事者	18.9%
販売従事者	4.0%
サービス職業従事者	11.7%
保安職業従事者	0.8%
農林漁業従事者	0.3%
生産工程従事者	1.8%
輸送・機械運転従事者	1.0%
建設・採掘従事者	1.1%
運搬・清掃・包装など従事者	1.9%
分類不能の職業	3.3%
専業主婦・主夫	12.1%
学生	2.9%
無職	13.6%
答えたくない	7.4%
全体	100.0%

回答者の年代

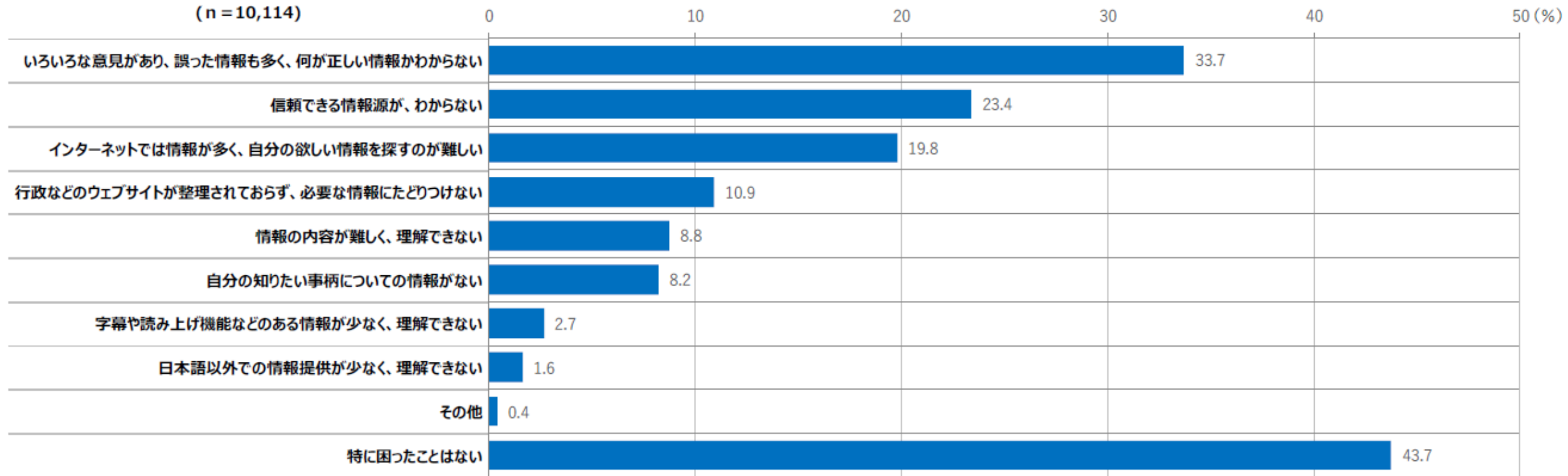


※本調査結果の構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計をしても必ずしも100とはならない。

あなたは新型コロナを含む感染症の情報収集について、困ったことがありますか。
あてはまるものをすべて選んで下さい。

回答対象者：全員

(n = 10,114)

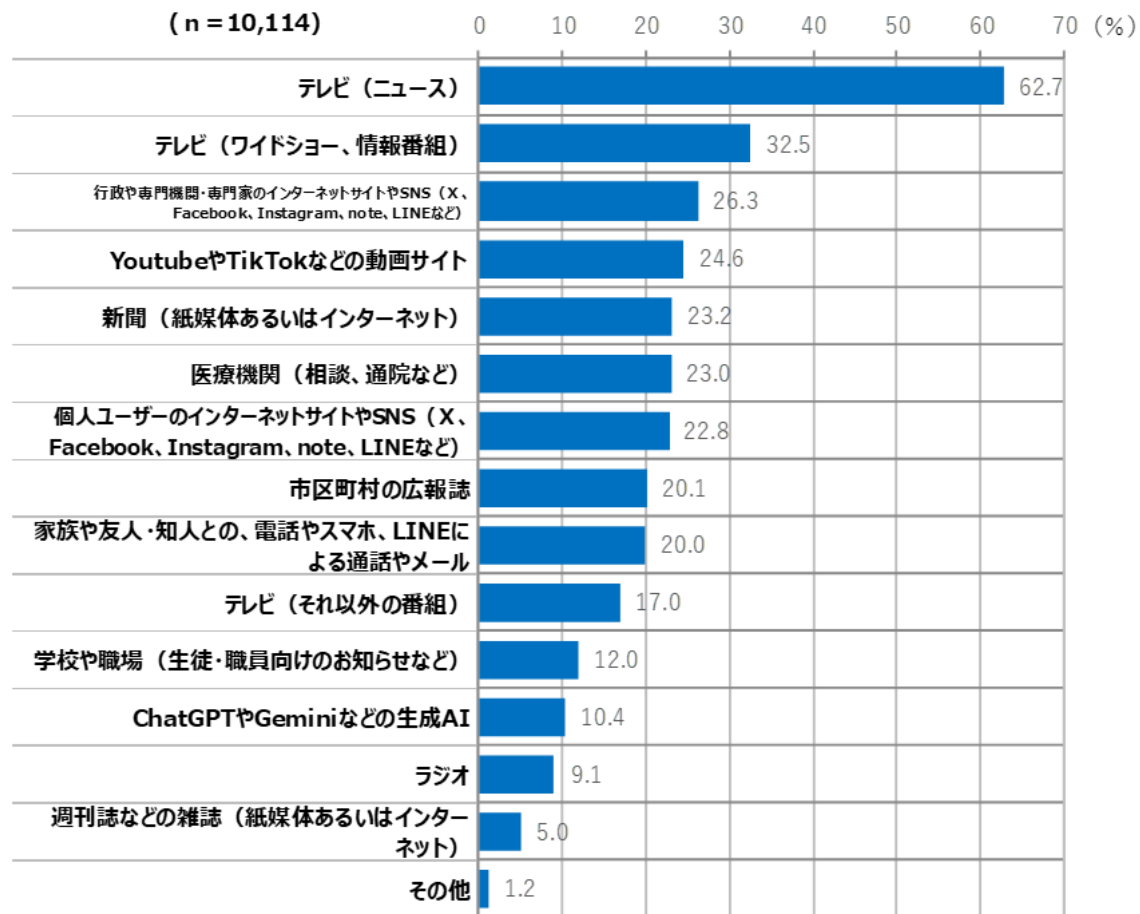


「何が正しい情報がわからない」（33.7％）が最も高く、情報の真偽に関する困りごとが見られる。また、「信頼できる情報源がわからない」（23.4％）、「自分の欲しい情報を探すのが難しい」（19.8％）など、情報の取捨選択に関する内容も一定程度見られる。一方、「特に困ったことはない」は43.7％となっている。

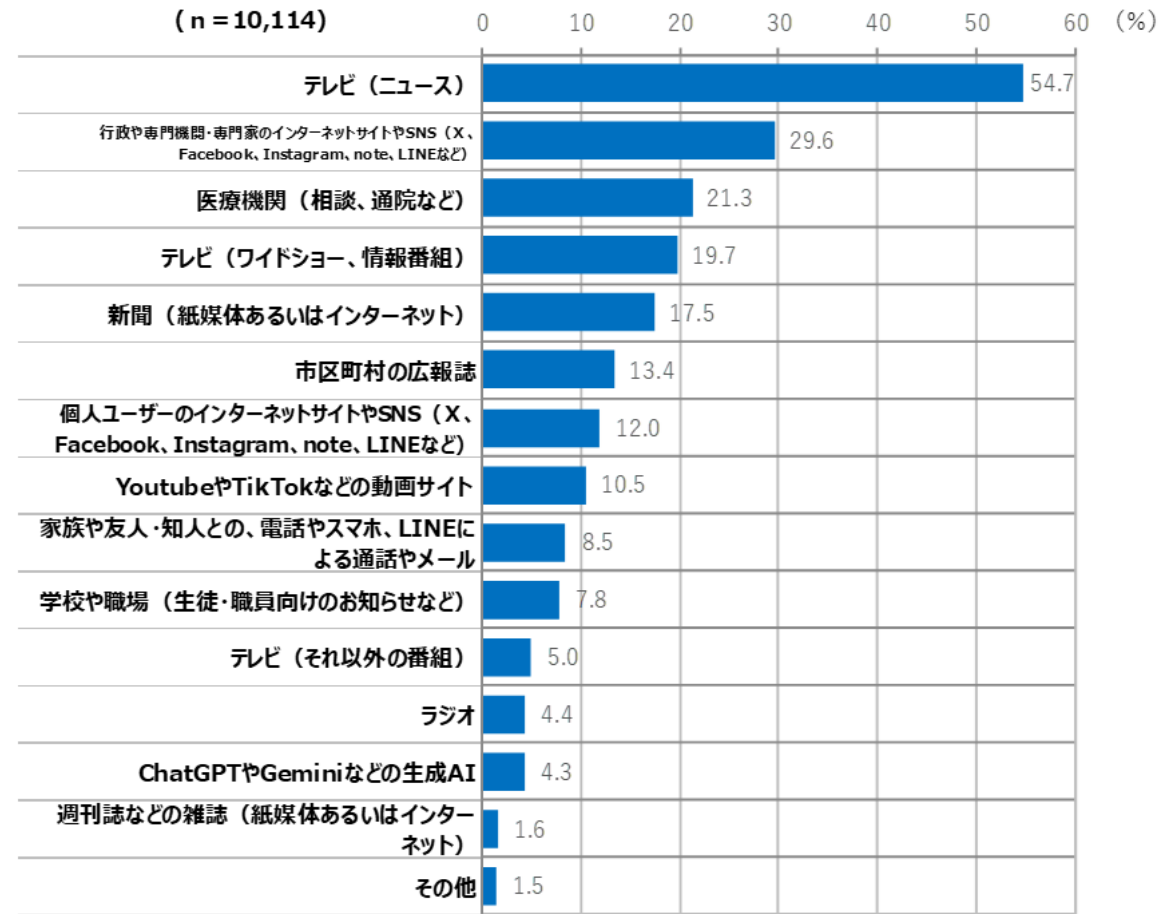
新型コロナや感染症に関わらず、あなたがふだんよく利用する情報源は何ですか。あてはまるものをすべて選んで下さい。
／新型コロナやその他の感染症に関して情報を得ようとするとき、どの情報源を利用しますか。3つまで選んで下さい。

回答対象者：全員

<ふだんよく利用する情報源>

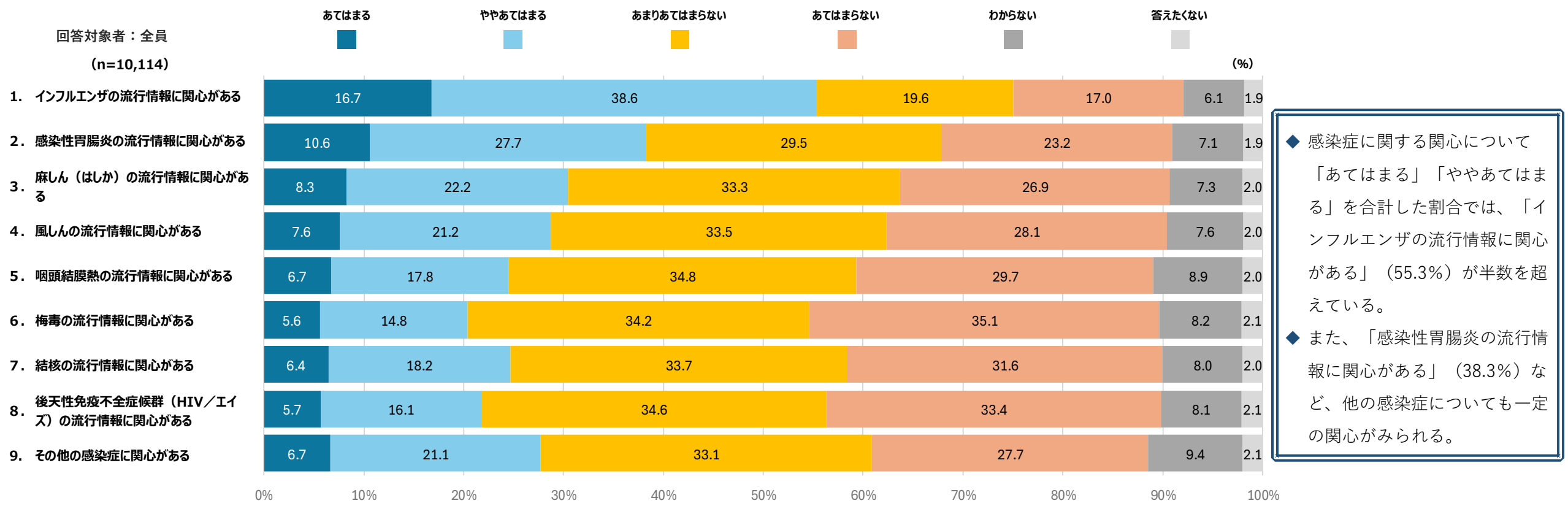


<新型コロナやその他の感染症に関しての情報源>

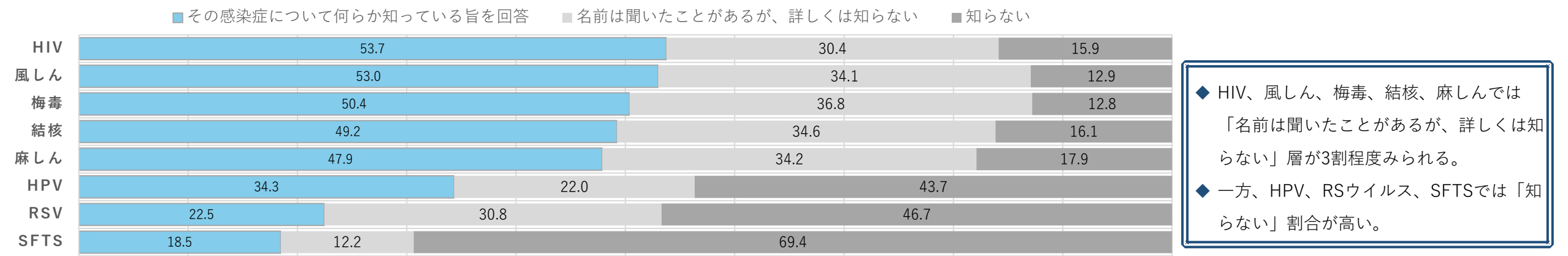


情報源としては、「テレビ（ニュース）」の利用が最も多く、日常的な情報収集、感染症に関する情報収集のいずれにおいても上位となっている。また、感染症に関する情報収集では、「行政や専門機関・専門家のインターネットサイトやSNS」（29.6%）や「医療機関」（21.3%）など、専門性の高い情報源の利用も一定程度みられる。

新型コロナ以外の感染症に関して、あなたの気持ちにあてはまるものをそれぞれひとつずつ選んで下さい。

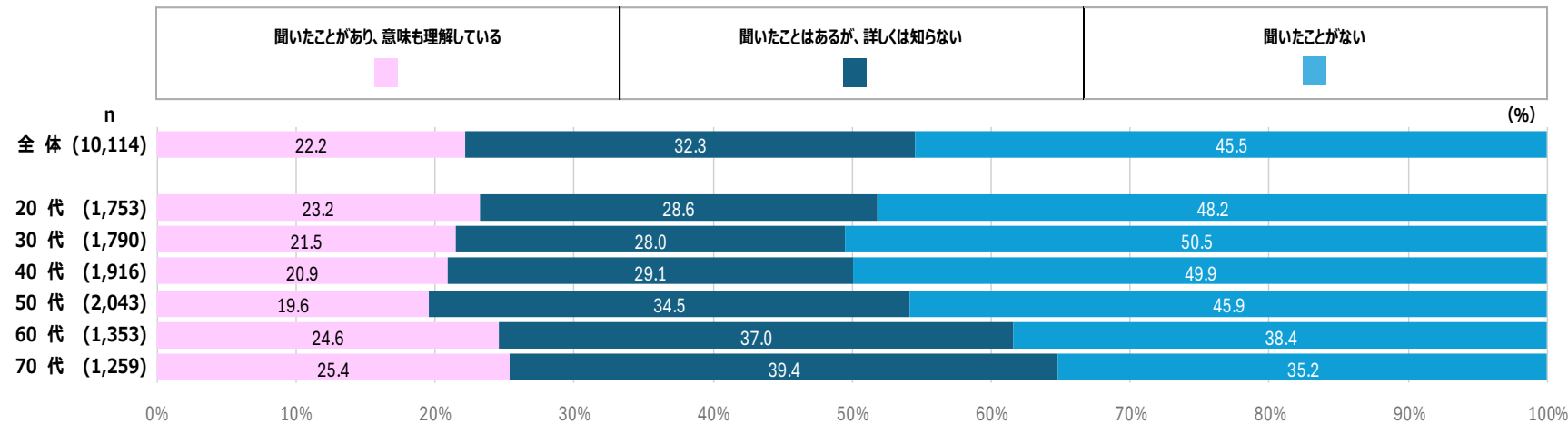


新型コロナ以外の感染症について、知っていることを選んで下さい。



あなたは、薬剤耐性という言葉を知っていますか。あてはまるものを1つ選んで下さい。

回答対象者：全員

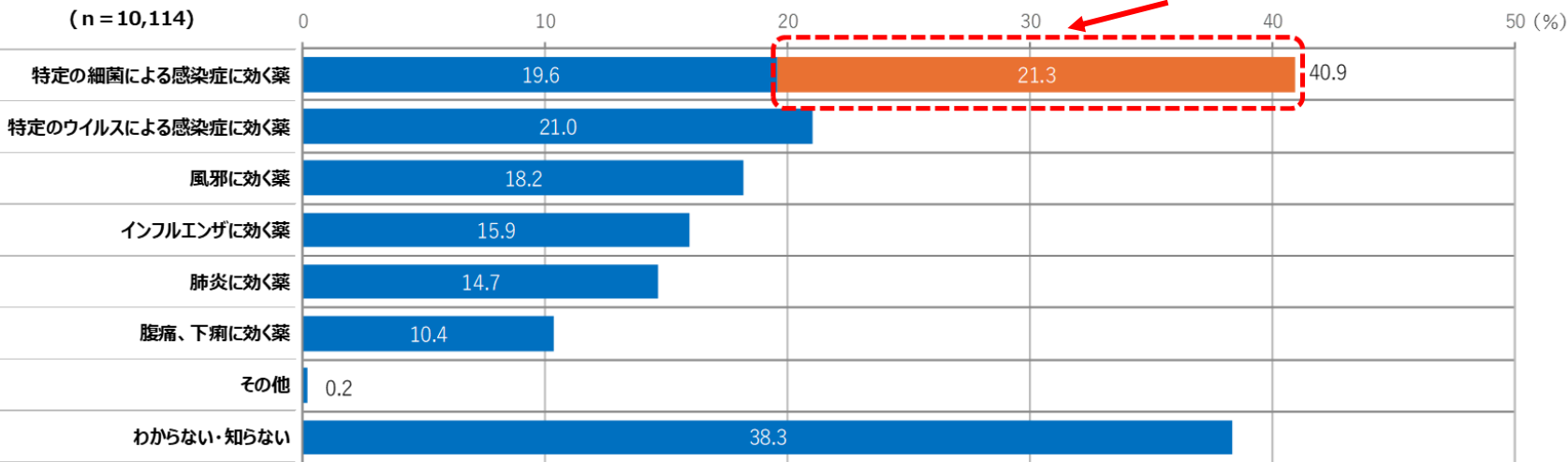


◆ 薬剤耐性の認知については、「聞いたことがあり、意味も理解している」(22.2%)に加え、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」(32.3%)とする回答もみられる。

あなたは、抗菌薬（抗生物質を含む。以下「抗菌薬」という）とはどのような薬だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

回答対象者：全員

「特定の細菌による感染症に効く薬」と回答した内、「特定のウイルスによる感染症に効く薬」、「風邪に効く薬」、「インフルエンザに効く薬」と重複回答していない割合

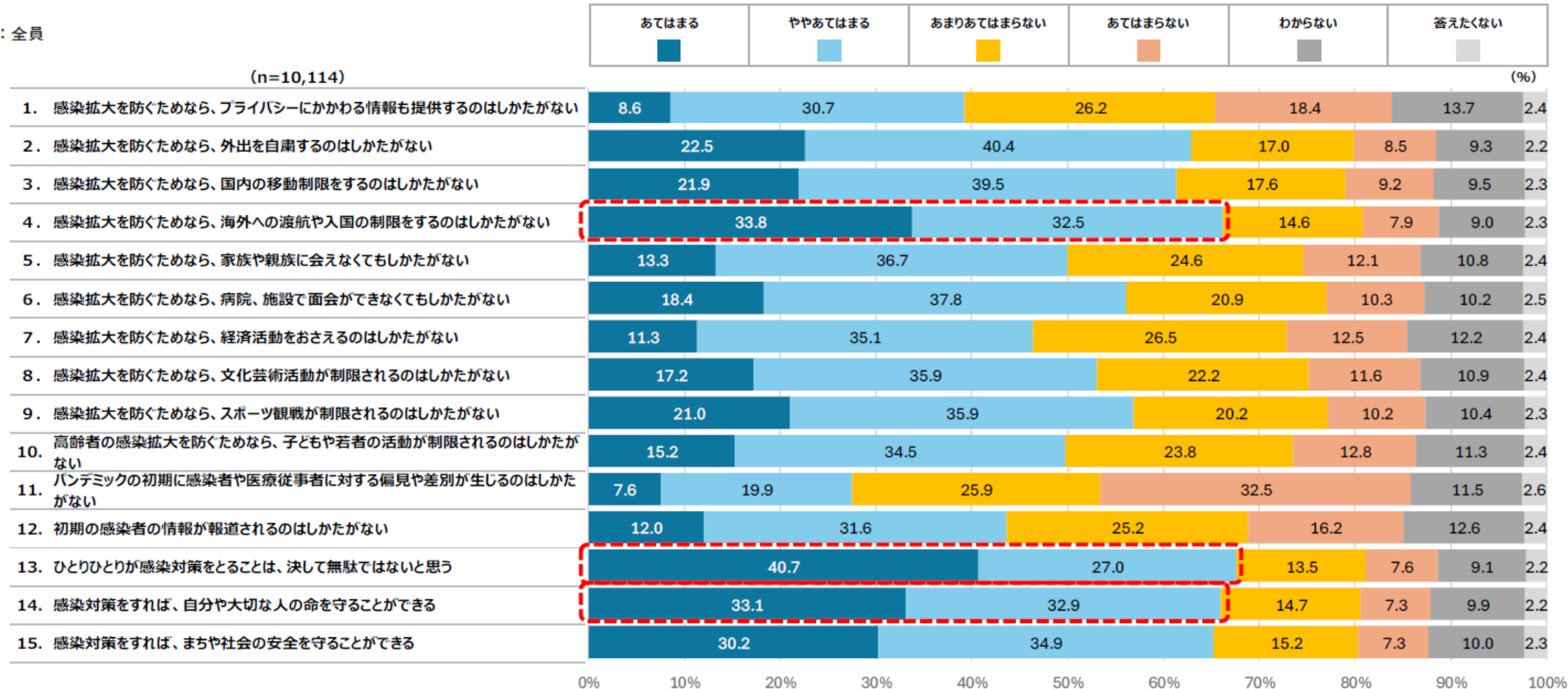


【参考】抗菌薬（抗生物質）は細菌に対して効果がある薬であり、ウイルスによる感染症には効果がないとされている。

◆ 抗菌薬・抗生物質に対する認識については、「特定の細菌による感染症に効く薬」といった理解がみられる一方、他の感染症に効く薬と考えるなど、理解にばらつきがみられる。

今後、世界的な感染症の流行（パンデミック）が発生した際の対応に関して、あなたの気持ちにあてはまるものをそれぞれひとつずつ選んで下さい。

回答対象者：全員



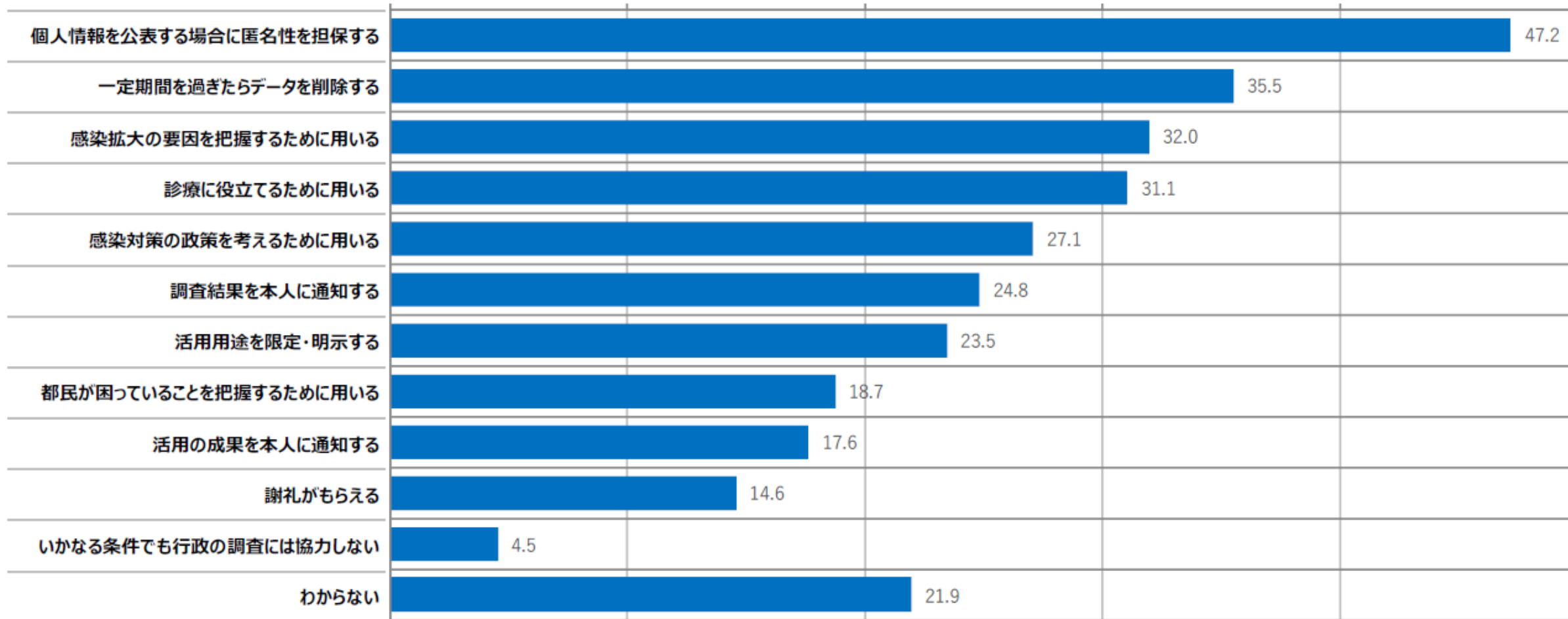
「あてはまる」「ややあてはまる」を合計した割合では、「ひとりひとりが感染対策をとることは、決して無駄ではないと思う」や、「感染拡大を防ぐためには、海外への渡航や入国の制限をするのはしかたがない」、「感染対策をすれば、自分や大切な人の命を守ることができる」といった項目が高い。

パンデミック発生時には、感染状況の把握や感染対策に役立てるため、行政が個人情報の提供を求めることがあります。どのような条件であれば協力できますか。あてはまるものをすべて選んで下さい。

回答対象者：全員

(n = 10,114)

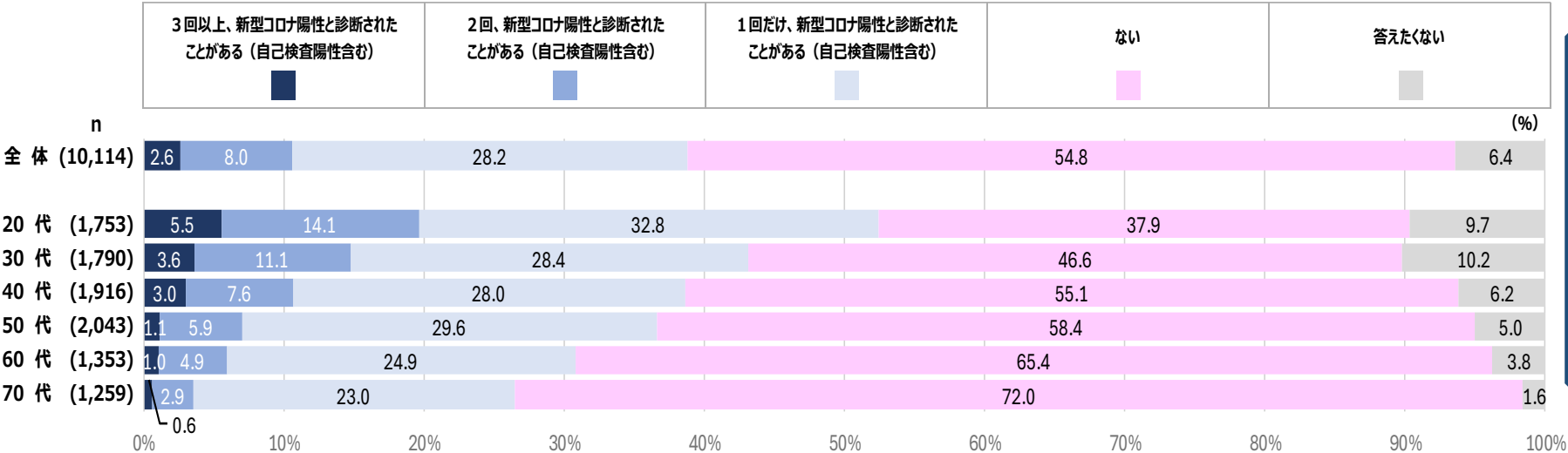
0 10 20 30 40 50 (%)



「個人情報を公表する場合に匿名性を担保する」や、「一定期間を過ぎたらデータを削除する」といった条件が挙げられている。また、「感染拡大の要因を把握するために用いる」や「診療に役立てるために用いる」などの回答もみられる。

あなたは、新型コロナ陽性と診断されたことがありますか。あてはまるものをひとつ選んで下さい。

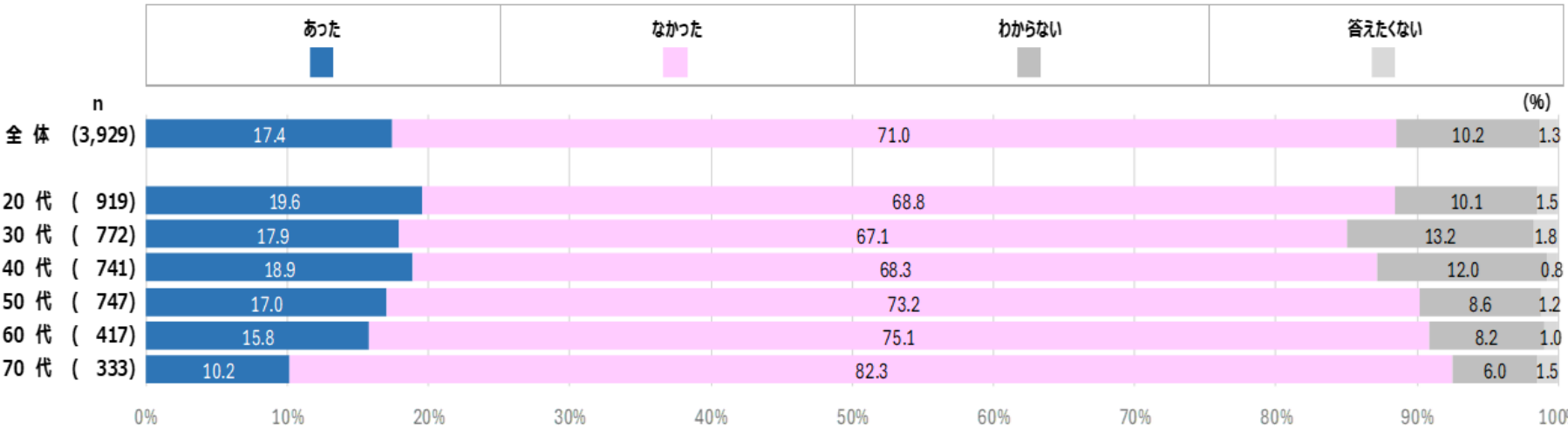
回答対象者：全員



- ◆ 新型コロナ陽性と診断された経験については、全体では「ある」が約4割、「ない」が約6割となっている。
- ◆ 年代別にみると、いずれの年代でも「ない」とする回答が多く、高年齢ほどその割合が高くなる傾向がみられる。

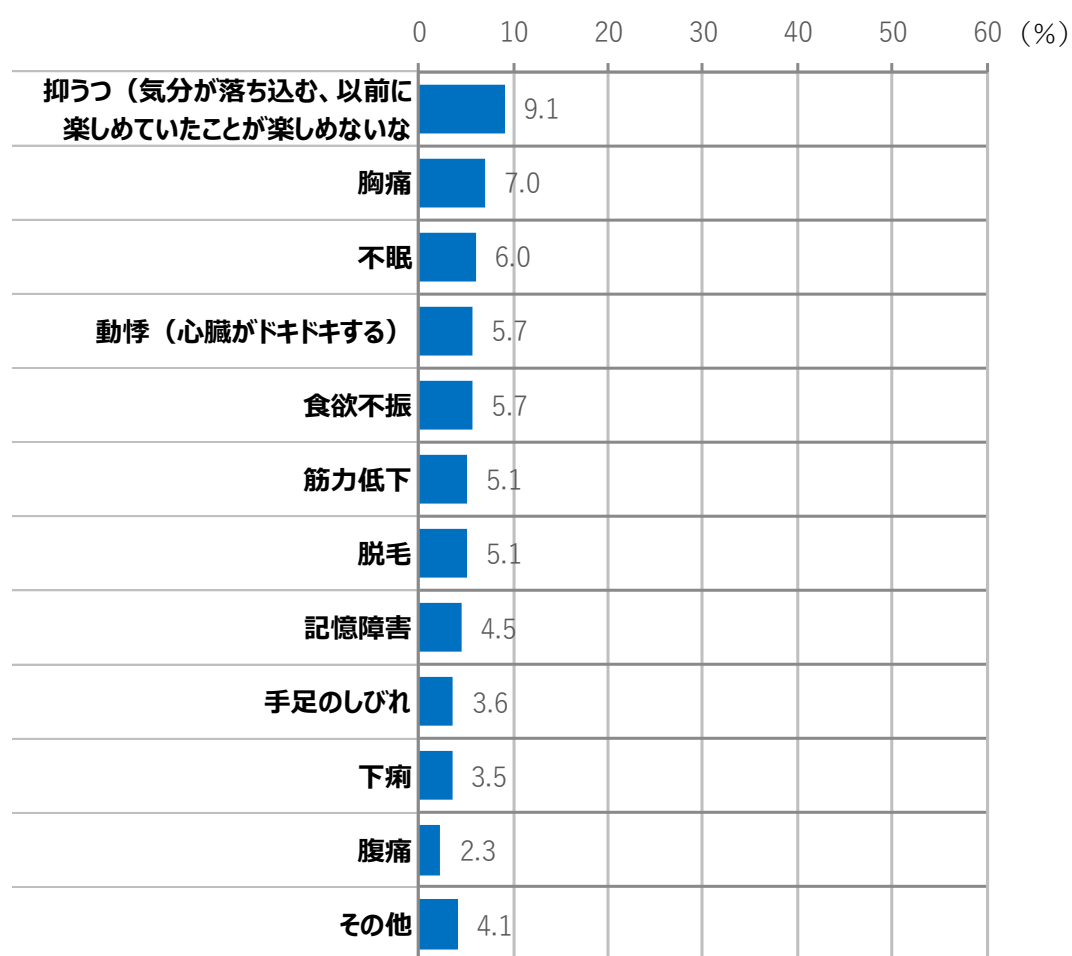
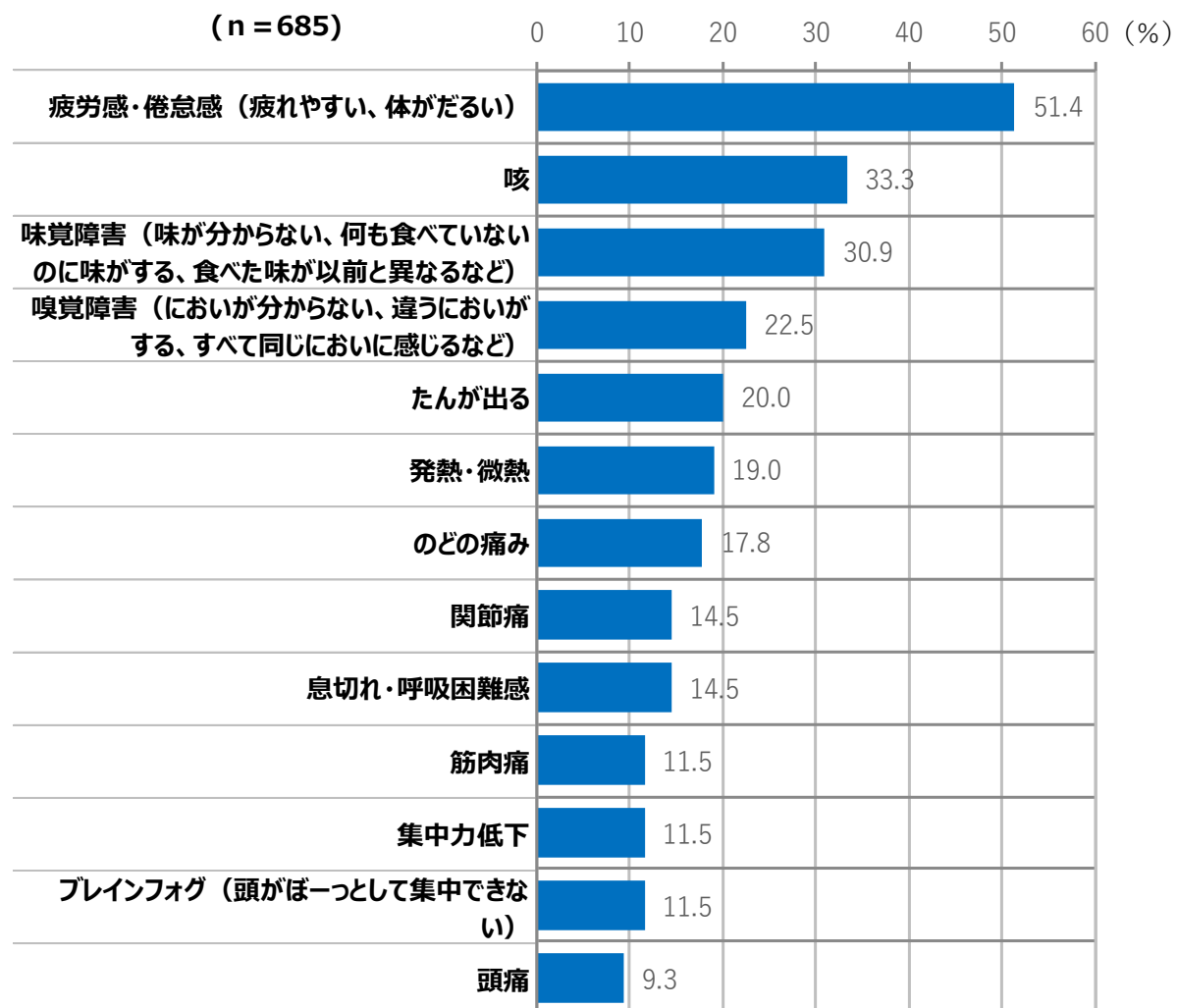
「新型コロナ陽性と診断されたことがある」と答えた方におうかがいします。新型コロナに感染してから2カ月以上の期間、後遺症を疑う症状がありましたか。あてはまるものをひとつ選んで下さい。

回答対象者：「新型コロナ陽性と診断されたことがある」と回答した人



- ◆ 新型コロナの陽性診断後に後遺症を疑う症状があったかについては、全体では「あった」が約2割、「なかった」が約7割となっている。
- ◆ 年代別にみても、大きな差はみられない

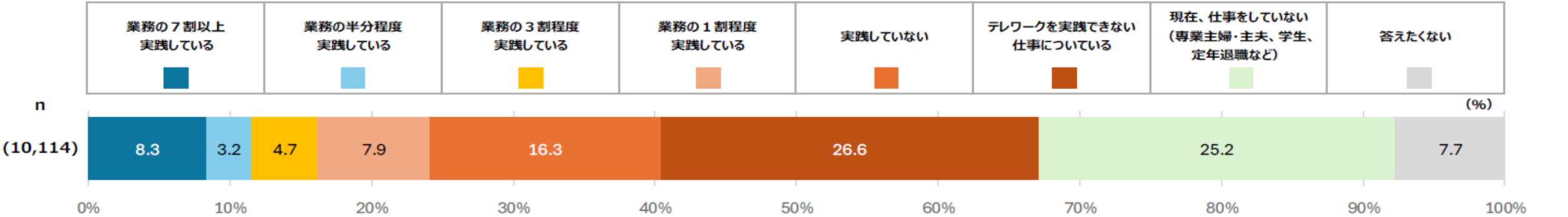
「新型コロナ陽性と診断されたことがある」と答えた方におうかがいします。新型コロナに感染してから2カ月以上の期間、後遺症を疑う症状がありましたか。あてはまるものをひとつ選んで下さい。



◆ 新型コロナ陽性診断後に後遺症を疑う症状があった人からは、「疲労感・倦怠感」、「味覚障害」、「嗅覚障害」などの症状が挙げられている。

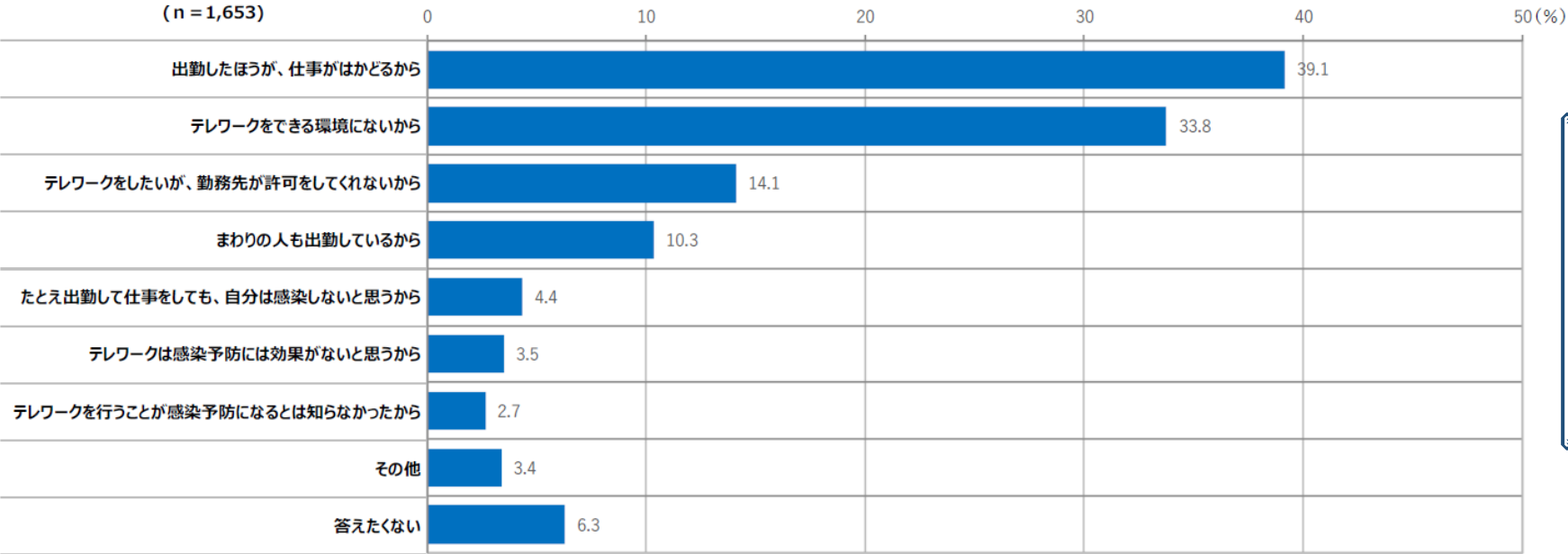
お仕事をされているかたで、この1ヶ月、あなたは、テレワークをどれくらい実践しましたか。あてはまるものをひとつ選んで下さい。

回答対象者：全員



「実践していない」と答えた方におうかがいします。その理由として、あてはまるものをすべて選んで下さい。

回答対象者：この1ヶ月、テレワークを「実践していない」と回答した人



◆ テレワークの実施状況については、「実施している」とする回答がみられる一方、「実施していない」や「テレワークを実施できない仕事についている」など、実施に至っていない状況もうかがえる。

<まとめ>

- 感染症に関する情報は、様々な情報源から得られている一方で、「何が正しい情報かわからない」「信頼できる情報源がわからない」といった声もみられ、情報の受け取り方や判断行動に関する課題がうかがえる。
- 新型コロナ以外の感染症については、都民の関心や認知にばらつきがみられ、**名前は知っているが詳しくは知らない層も一定程度みられる。**
- **薬剤耐性という言葉**を聞いたことがあり、意味も理解している人の割合は約2割にとどまっており、**理解が十分に浸透していない状況**がうかがえる。
- パンデミックについては将来起こりうるものと考えられており、**感染対策の必要性や行動制限等についても一定の受容意識**がみられる。
- 新型コロナの後遺症には、疲労感・倦怠感など**日常生活に影響しうる症状**がみられる。また、テレワークや感染症への備えなど、**生活変化に関する行動にも一定の傾向**がみられる。

都はこれらの結果を踏まえ、基本的な感染対策の普及啓発に加え、**感染症に係る正確で分かりやすい情報発信等**を通じ、**都民の理解に資する取組を進めていくことが求められる。**